

ライオン寺だよ

出張版

今宵ある浄土真宗本願寺派の来恩寺が毎月発行している「ライオン寺だよ」。1992年に創刊し、今年6月で300号を迎えました。今回、浄土真宗にとりて最も大きい行事である「報恩講」に際し、タウンニュース特別出張版を発行します。知ればより一層仏教が身近になる、そんな「ライオン寺だよ」です。

知っていますか? 「報恩講」

親鸞聖人の御命日 盛大に法要

11月から1月にかけて、浄土真宗では「報恩講」という1年で最も大きな法要が、各派の本山や別院(築地本願寺など)、一般寺院にて執り行われる。茅ヶ崎市でも今宵ある浄土真宗本願寺派来恩寺(橋本正信住職)などで勤められる。

「報恩講」とは、親鸞聖人の「命日を」として、そのご恩に報いるための法要。浄土真宗本願寺派では、新暦の1月16日をご命日として勤める。

本山・西本願寺(京都府京都市)以外の一般寺院では、旧暦の場合や、その土地の慣例にしたがって法要が行われる。いずれも浄土



来恩寺 スタイリッシュな外観



本堂。住職のハワイでの経験を生かし教会風の長椅子で座りやすい

- ①御恩報謝・鎌倉時代には「感謝」という言葉がなく、恩に報いるためには、口だけではなく、形のある行動を取らなければいけないと考えられていた。
- ②勤行…お経などを読むことを指す。おつとめ。
- ③法話…僧侶が仏さまのお話しをすること。浄土真宗では仏のはたらきを「聞く」ことが大切にされる。

「寺は本来、喜びを共にする場」と橋本住職。「報恩講」も阿弥陀さまの教えに出遇うことができた喜びを、同じ道を歩む仲間と共有する意義があったと考えられるという。

かつては地域全体のお祭りとして親しまれ、今でも寺の参道に屋台が並ぶ地域もある。法要の内容も、勤行②・法話③に引き続き、現在では落語やコンサートなどのイベントを開催する寺も多い。

市内では来恩寺で11月18日(土)

「楽しくなければお寺じゃない」を合言葉とする今宵の来恩寺では、11月18日(土)に報恩講を執り行い、法要の後はビンゴ大会を開催し、親交を深める。一座目午前10時30分、二座目午後1時30分。

橋本住職は「初めての方でもお気軽にご参拝ください」と呼びかける。問い合わせは☎0467・87・5527へ。



特別インタビュー

「ハワイと仏教」

来恩寺の橋本住職は、1983年から3年間、ハワイ開教区(布教のための地域区分)に勤めた珍しい経歴の持ち主。住職が感じたハワイでの仏教・宗教観について話を聞いた。

ホノルルでの研修の日曜日の午前中に3回の礼拝がありました。婦人会、日曜学校の子どもたち、一般の方と続きます。英語で法話もしましたよ。興味深かったのは「病院見舞い」という活動です。日本では僧侶が病院を見舞うことが出来ず、山を下り、浄土宗の開祖・法然上人と出遇います。

「そこで法然上人の説く『専修念仏』(すべての人は、阿弥陀さまから賜った念仏ひとつで救われる)という他力の教えに導かれます。当時の仏教界は、厳しい修行や、お金を使ってお寺や仏像を造るといふ自力の善行を行える人しか、救済の道はありませんでした。『善行を行えない人々こそ、阿弥陀さまは救いたいと思われている。そのため誰にでも行える念仏が用意されているのだ』と説いたのです。

同研究所所長の今井雅晴氏。次回第35回は関東から京都へと戻った晩年の親鸞についてやさしく見ていく。宗派問わず参加可能。時間は午後1時30分から3時55分まで。

「うのは」くなくなった方のためと考える方が殆どですが、ハワイでは違うのです。袈裟を着て数珠を持ち、入院患者の仏教徒の方を訪ね悩む事などを聞くのです。

これは、ハワイの人たちは「宗教は私のためにある」と考えられていたからなのでしょう。ハワイでは「あなたの宗教は何?」「どの寺、教会?」と普通に話します。日本人は先祖のための供養など「家の宗教」という考えが広く根付いています。が、ハワイでは「私」が救われるために信じるもの、という考え方が多いように感じました。

相模国の親鸞

ここ相模国には、いわゆる鎌倉新仏教の僧侶たちが、新興の武士の都である鎌倉入りを目指して、多く集結しています。

浄土真宗(以下「真宗」と略)の祖・親鸞も、浄土宗・法然の門弟として活動をしていた。越後国への流罪、そして放免後は常陸国を中心とした東国での布教生活に力を入れています。

親鸞の東国布教は、四十二歳から二十一年間にも及びます。その東国での生活、最後の大仕事は鎌倉での「一切経校合」です。「一切経」とはお経の名前ではなく、日本にもたらされた経典類の総称です。「校合」とは書きされた経典類に文字の間違いやないか、チェックをする作業をいいます。

親鸞は北条政子十三回忌に向けて新調された一切経のチェック役を、幕府北条氏に任命されたと考えられます。場所は鶴岡八幡宮、当時は鶴岡八幡宮寺といふ寺でした。

この事業への参加は、親鸞の鎌倉入り、つまり幕府から布教活動を認められたことを意味します。当時、幕府のお蔭元では好き勝手に布教活動は出来ませんでした。

同じ嘉禄三年、隆寛という法然の門弟が京都から来て厚木の飯山に滞在しています。彼は流罪にされて奥州へ流される途中でした。この隆寛も親鸞の兄弟弟子です。飯山の光福寺に隆寛の墓所があります。

法然の孫弟子にあたる良忠も、九州から鎌倉に入って光明寺を開くなどの活躍をしました。良忠は現在の浄土宗の基礎を築いた人物です。

さらには曾孫弟子にあたる時宗の祖一遍も鎌倉に入って人気を博しました。そのことは国宝の絵巻物「一遍聖絵」に詳しく記されています。時宗は藤沢市の清浄光寺(遊行寺)や、相模原市の無量光寺などが知られています。

このように相模国でも多くの専修念仏者が活躍していたので、

相模国の専修念仏者たち

専修念仏とは、極楽往生のためには念仏を称えるだけでよい、という法然が説いた教えです。法然は浄土宗の開祖です。親鸞はこの法然の門弟でした。

相模国では、源頼朝の妻の北条政子が法然の教えを受けています。政子は夫や四人の娘、息子全員に先立たれていました。淋しく、また亡くなった者たちの極楽往生が心配だったのでしょう。

また法然の門弟で相模国に入った僧に、聖覚という僧がいます。彼は鎌倉幕府の執権北条泰時(時)に招かれ、政子三回忌の導師として京都から来たのです。聖覚は親鸞の兄弟弟子で、天台宗の有力者でした。彼はまた箱根神社や伊豆山神社(熱海市)の支配者でもありました。聖覚が鎌倉へ来たのは嘉禄三年(一二二七)のことでした。

同じ嘉禄三年、隆寛という法然の門弟が京都から来て厚木の飯山に滞在しています。彼は流罪にされて奥州へ流される途中でした。この隆寛も親鸞の兄弟弟子です。飯山の光福寺に隆寛の墓所があります。

親鸞聖人は、法然上人を師匠に、この教えを世に広めていくと決意します。日々の生活に懸命な庶民や、人を殺してしまつた武士たちの間で、この教えは広まりましたが、他の仏教教団から反感をかい、流罪となつてしまっています。

しかし親鸞聖人は、これを布教の良い機会だと考えました。流罪が解かれた後も、関東で20年の間、伝道布教に力を注ぎました。

神奈川県にも多くの旧跡が残ります。800年を経た今でも、お念仏が多くの人々によって相継ぎされています。

無料で送迎は茅ヶ崎駅北口広場(コージョーコーナ1前)に午後1時集合。申込み・問い合わせは同研究所☎0467・87・5527へ。



湘南海岸を親鸞聖人も歩かれたことでしょう

親鸞聖人は平安から鎌倉時代に活躍された方です。1173年、儒学を生業とする京都の貴族・日野家に生まれ、9歳で比叡山で出家し、その後20年間修行されます。しかしそこでは救われる道に出遇

うことが出来ず、山を下り、浄土宗の開祖・法然上人と出遇います。

親鸞聖人は、法然上人を師匠に、この教えを世に広めていくと決意します。日々の生活に懸命な庶民や、人を殺してしまつた武士たちの間で、この教えは広まりましたが、他の仏教教団から反感をかい、流罪となつてしまっています。

相模国のお姿

今回の相模国物語でも語られた、親鸞聖人の最後の大事業「一切経校合」。左の眉毛の太いお坊様が親鸞聖人、右上の海苔巻のようなものが校正を終えた経典類の巻物。右下ではお礼の受け渡しが見られます。各種ある「親鸞伝絵」は、報恩講の際に「絵解き」という解説をしながら、聖人の生涯を紙芝居のようにお話しします。

相模国には、いわゆる鎌倉新仏教の僧侶たちが、新興の武士の都である鎌倉入りを目指して、多く集結しています。

親鸞の東国布教は、四十二歳から二十一年間にも及びます。その東国での生活、最後の大仕事は鎌倉での「一切経校合」です。「一切経」とはお経の名前ではなく、日本にもたらされた経典類の総称です。「校合」とは書きされた経典類に文字の間違いやないか、チェックをする作業をいいます。

親鸞聖人は、法然上人を師匠に、この教えを世に広めていくと決意します。日々の生活に懸命な庶民や、人を殺してしまつた武士たちの間で、この教えは広まりましたが、他の仏教教団から反感をかい、流罪となつてしまっています。

しかし親鸞聖人は、これを布教の良い機会だと考えました。流罪が解かれた後も、関東で20年の間、伝道布教に力を注ぎました。

神奈川県にも多くの旧跡が残ります。800年を経た今でも、お念仏が多くの人々によって相継ぎされています。

無料で送迎は茅ヶ崎駅北口広場(コージョーコーナ1前)に午後1時集合。申込み・問い合わせは同研究所☎0467・87・5527へ。

相模国の浄土教

相模国・茅ヶ崎のルーツをやさしく紐解きます

相模国には、いわゆる鎌倉新仏教の僧侶たちが、新興の武士の都である鎌倉入りを目指して、多く集結しています。

親鸞の東国布教は、四十二歳から二十一年間にも及びます。その東国での生活、最後の大仕事は鎌倉での「一切経校合」です。「一切経」とはお経の名前ではなく、日本にもたらされた経典類の総称です。「校合」とは書きされた経典類に文字の間違いやないか、チェックをする作業をいいます。



今井雅晴 昭和17年生まれ。同研究所所長。筑波大学名誉教授。著書に「鎌倉新仏教の研究」(吉川弘文館)など。現在は朝日カルチャーセンターなどでも講座を持つ。



橋本順正 平成元年生まれ。同研究所事務局長。浄土真宗本願寺派総合研究所研究助手。築地本願寺銀座サロン講師。